

# iMC PLAT 7.3(E0705P02) リリースノート

本書のいかなる部分も、New H3C Technologies Co.,Ltd.の事前の書面による同意なしには、いかなる形式または手段によっても複製または変更することはできません。

本ドキュメントの情報は、予告なく変更されることがあります。

The H3C logo is displayed in a bold, red, sans-serif font. The letters 'H', '3', and 'C' are connected, with the '3' being slightly smaller and positioned between the 'H' and 'C'.

# 内容

バージョン情報	2
バージョン番号	2
バージョン履歴	2
バージョンの互換性マトリックス	2
制限事項および注意事項	2
バージョンの更新	16
機能の更新	16
iMC PLAT 7.3(E0705P02)	16
未解決の問題と回避策	17
解決された問題のリスト	24
iMc PLAT 7.3(E0705P02)で解決された問題	24
ソフトウェアのアップグレード	26
制限事項およびガイドライン	26
前提条件	26
iMCのバックアップ	27
iMCのパッチ適用	28
アップグレード障害後のiMCの復元	32
情報問い合わせ先情報	32

# バージョン情報

## バージョン番号

このリリースノートは、次のバージョン用です。iMc PLAT 7.3(E0705P02)

iMcのバージョンを確認するには、iMc設定プラットフォームの右上隅にあるAboutをクリックします。

## バージョン履歴

表1バージョン履歴

バージョン番号	リリース日	備考
iMc PLAT7.3(E0705P02)	2019-10-30	
iMc PLAT7.3(E0705L01)	2018-08-15	

## バージョンの互換性マトリックス

バージョンの互換性マトリックス

項目	仕様
アップグレード可能なバージョン	iMc PLAT7.3(E0705) iMc PLAT7.3(E0705L01)
オペレーティングシステム	Windows Server2012 KB2836988(64ビット) Windows Server2012 R2(64ビット) Windows Server2016 (64ビット) Red Hat Enterprise Linux Server7.3(64ビット) Red Hat Enterprise Linux Server7.4(64ビット)
ブラウザ	IE10またはIE11、Firefox 50以上、Chrome 44以上

## 制限事項および注意事項

### オペレーティングシステム

- H3Cでは、iMcを64ビットのWindowsオペレーティングシステムにインストールすることをお勧めします。iMcを32ビットのWindowsオペレーティングシステムにインストールする場合、iMcのインストールパス\client\binディレクトリにあるsetmem.bat(.sh)ツールを使用して、"setmem 1024 512"コマンドを使用してWeb

サービスプロセスのJava実行メモリーを調整することをお勧めします(最初のパラメータは最大ヒープメモリーです。1024の場合は32ビットのオペレーティングシステムを推奨し、1024を超えません。2番目のパラメータは最大PermGenメモリーです。512の場合は32ビットのオペレーティングシステムを推奨し、768を超えません)。メモリーを調整した後でWebサービスプロセス(プライマリサーバーのjserverプロセスまたはセカンダリサーバーのWebServerプロセス)が開始できない場合は、メモリーを適切に減らしてから、Webサービスプロセスを再度開始してください。

- Linux環境では、iMCの検索文字列では大文字と小文字が区別されます。たとえば、iMCホームページでデバイスラベル別にデバイスを問い合わせる場合、デバイスラベルでは大文字と小文字が区別されます。
- Linux OSでは、しばらく実行して、システムCPUが90%以上安定していることがわかり、CPUリソースを占有するプロセスの名前がora\_j0xx\_xxxxである場合、kill -9ora\_j0xx\_xxxxコマンドを使用して、このプロセスを強制終了します。
- オペレーティングシステムの時間は、マスターサーバーと下位サーバーで同じである必要があります。
- Windowsでパブリックコンポーネントが更新されると、JDKのアップグレードが失敗することを示すプロンプトが表示されます。この問題を解決するには、Windows用のDHCPクライアントおよびWindowsイベントログサービスを手動で停止し、iMCをアップグレードします。

## データベース

- データベースが再起動されている場合は、iMCも再起動する必要があります。
- SQL Serverデータベースを使用する場合は、最新の100,000個のアラーム、トラブル、およびsyslogだけが表示されます。
- SQL Serverデータベースをインストールする場合は、インストールパスではなくドライブ文字のみを変更できます。
- オペレーティングシステムの起動時には、iMCの前にデータベースが起動されていることを確認してください。
- 組み込みデータベースを使用してiMCが正常にインストールされた後、デプロイメント監視エージェントが自動バックアップを正常に実行するには、デプロイメント監視エージェントを再起動する必要があります。

## インストールと導入

- インストールプログラムの制限:宛先パスには、英数字、文字、空白および下線以外の文字を含めることはできません。他の企業のネットワーク管理製品と同じサーバーにiMCをインストールすることはできません。iMCを再インストールする場合は、アンインストール後にコンピュータを再起動してください。
- このバージョンのCMDBコンポーネントは新しい組み込みデータベースを使用するため、古いデータを新しい組み込みデータベースに移動する必要があります。アップグレードプロセス中の長時間の待機を回避するには、アップグレード後にiMCインストールパスの/client/binディレクトリにあるLegacyDataMigrateTool.batファイル(Windowsの場合)またはLegacyDataMigrateTool.shファイル(Linuxの場合)を手動で実行します。分散配置モードが使用されている場合は、下位サーバーでこのタスクを実行します。

- ツールの手順:
  - Windowsの場合: cmdウィンドウを開き、/client/binディレクトリにアクセスして、LegacyDataMigrateTool.batファイルを実行します。操作が正しくないために埋込みデータベースにすでにデータがある場合は、最初にLegacyDataMigrateTool.bat-clearファイルを実行します。
  - Linuxの場合:BASHシェルを開き、/client/binディレクトリにアクセスして、LegacyDataMigrateTool.shファイルを実行します。操作が正しくないために埋込みデータベースにすでにデータがある場合は、最初にLegacyDataMigrateTool.sh-clearファイルを実行します。
- 複数サーバーの同時デプロイメントまたはコンポーネントアップグレードはサポートされていません。
- iMC-RestPluginコンポーネントはアップグレードをサポートしておらず、再インストールのみが可能です。
- iMCをアンインストールするには、プライマリサーバーからiMCをアンインストールする前に、セカンダリサーバーからiMCをアンインストールします。
- Windows Server2012およびWindows Server2012R2では、デプロイメントモニターリングエージェントを開始するときに、Run as Administratorを選択します。
- 別のプロセスがjdkフォルダを使用しているためにiMCアップグレードが失敗した場合は、プロセスエクスプローラを使用してプロセスを識別し、プロセスを停止してから、再試行します。
- デュアルiMCサーバー環境でiMCをアップグレードする前に、まずH3C iMCサーバーを切断します。
- プラットフォームが標準モードでインストールされている場合は、サービスコンポーネントをデプロイする前に、デプロイメント監視エージェントを再起動する必要があります。

## データのバックアップ

- DBManを使用してローカルiMCデータをリモートiMcサーバーのデータベースにバックアップするには、iMcのインストール中に2つのサーバーで同じデータベーススーパーユーザー(SQLサーバーデータベースのsaユーザー、Oracleデータベースのsysユーザーなど)が構成されていることを確認します。
- ローカルデータベースを使用する分散iMC配置では、iMC-EUPLATおよびiMC-GAMコンポーネントは、下位サーバーに配置されている場合でもマスターサーバーデータベースを使用します。その結果、下位サーバーデータベースリストには、バックアップおよびリストア用のconfig\_dbデータベースのみが含まれます。下位サーバーにインストールされているすべてのデータベースを表示する手順は、次のとおりです。
  - iMCインストールパスのディレクトリ/dbman/etclにplat.skipという名前のファイルを追加します。ファイルの内容は次のとおりです。  
 comp\_skip=iMc-EUPLAT、iMC-GAM
  - b.デプロイメントモニターリングエージェントを再起動し、データベースのバックアップおよびリストアページを再度開きます。

- DBMan自動リストアを使用する場合は、プライマリおよびバックアップiMCシステムでコンポーネントおよびコンポーネントのバージョンが一貫していることを確認してください。一貫していない場合、リストアが失敗する可能性があります。
- 複数のiMCサーバーが1つのデータベースサーバーを共有する場合は、データベースサーバー上の各iMCサーバーに対して排他的DBManプロセスを実行し、これらのiMCサーバーで異なるDBManポートが使用されていることを確認する必要があります。

## モニターエージェント

- Deployment Monitoring Agentの場合、プロセス状態エラーのためにMonitorパネルのStartボタンとStopボタンを使用できない場合は、次の方法を試してください。
  - a. Deployment Monitoring Agentを終了し、H3C iMC Serverサービスを停止して、再起動します。
  - b. Deployment Monitoring Agentを使用してすべてのiMCプロセスを開始または停止できない場合は、次のスクリプトを実行してください。iMc Installation dir\server\bin\start\_server.bat(iMc Installation dir/server/bin/start\_server.sh In Linux)およびiMc Installation dir\client\bin\startup.bat(iMc Installation dir/client/bin/startup\_server.sh In Linux)を使用してiMcサーバーを開始します。iMc Installation dir\server\bin\stop\_server.bat(iMc Installation dir/server/bin/stop\_server.sh In Linux)およびiMc Installation dir\client\bin\shutdown.bat(iMc Installation dir/client/bin/shutdown.sh In Linux)を使用してiMサーバーを停止します。
- インストール中にコンポーネントが"installed"と表示されても、デプロイメントモニターリングエージェントには表示されない場合(通常、複数のユーザーが同じサーバー上で同時にデプロイメントオペレーションを実行する場合は、Install direcotory\deploy\components\xxx\パスの下にあるファイルを手動で削除し、再インストールできます。
- いくつかのVisual Studio2005エラーウィンドウがiMCプライマリサーバーで発生した場合は、次のいずれかのソリューションを使用してください。
  - Visual Studio2005をアンインストールします。
  - キーの値を削除します。

X86-32の場合:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\AeDebug\Debugger
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\ .NETFramework\DebugManagedDebugger
```

X86-64の場合:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432ノード\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\AeDebug\Debugger
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\ .NET Framework\DbgManagedDebugger
```
- Windows環境では、監視エージェントの起動時に "Deployment Monitoring

Agent already running.Do you want to redisplay the graphical user interface? Monitoring will not affected. “というメッセージが表示される場合があります。OKをクリックしても監視エージェントを起動できない場合は、オペレーティングシステムを再起動してください。

- iMCマスターサーバーを起動する前に、iMCスレーブサーバーを実行しないでください。そうしないと、iMCスレーブサーバー上の一部のプロセスが起動に失敗します。
- IMCにログオンできない場合は、jserviceプロセスを再起動します。

### **iMCのアップグレード**

- アップグレード中に、特定のコンポーネントのアップグレードパッケージをインストールするように求めるダイアログボックスが表示された場合は、表示される指示に従ってOKをクリックします。
- iMCプラットフォームまたはサービスコンポーネントがアップグレードされる場合、ユーザー定義演算子グループ内の演算子には、新しい機能に対する権限は自動的に付与されません。管理者は、ユーザー定義演算子グループに手動で権限を付与できます。
- バックアップサーバーを正しく起動するには、iMCをアップグレードする前に、Intelligent Deployment Monitoring Agentで自動バックアップおよびリカバリを停止します。
- iMCをアップグレードする場合は、マスターサーバー上のiMCバージョン、下位サーバー上のiMCバージョン、およびデータベース内のデータのiMCバージョンが同じであることを確認してください。
- iMCをアップグレードする前に、下位サーバーでアップグレードを成功させるために、展開モニターリングエージェントの自動バックアップおよびリカバリ機能をディセーブルにします。
- iMCをアップグレードした後、iMCにログインする前にブラウザキャッシュをクリアします。
- iMCをバージョン7.3にアップグレードする場合、DashBoardIによって発生するログイン例外が発生する可能性があります。iMCをiMC PLAT 7.3(E0506L06)以降にアップグレードしてください。

### **管理対象デバイスのアップグレード**

- デバイスのソフトウェアをアップグレードするときにデバイスを再起動しないように選択した場合、デバイスの現在のソフトウェアバージョンはアップグレード後に変更されません。

### **ハードウェアの互換性**

- 端末アクセスとVLAN管理はどちらも、Cisco IOS 12.4以降のみをサポートします。
- iMCは、SSHv2を使用して一部のHuaweiデバイスにアクセスできません。この問題を解決するには、デバイスでundo ssh server authentication-type keyboard-interactive enableコマンドを使用してキーボードインタラクティブをディセーブルにしてから、設定を保存します。

### **ブラウザ**

- ユーザーがブラウザをウィンドウ表示モードにしてiMCにログオンし、ブラウザを最大化した場合、ページサイズは調整できません。この問題を解決するには、ページをリフレッシュします。
- Chrome 42+はJREを含むNPAPIを無効にします。このため、Chrome 42+を使用している場合、iMCはアプレットを開くことができません。
- 時間のかかる操作が実行されている場合、ページの中央にアニメーションアイコンが表示されます。IEを介してiMCにアクセスすると、アニメーションアイコンの回転に失敗する場合があります。この問題はIEの制限によって発生しますが、関数の使用には影響しません。
- デバイスパネルやトポロジーアプレットなどの一部のiMC機能は、正常に動作するためにNPAPIプラグインを必要とします。Firefoxなどのブラウザを介してiMCでこれらの機能を使用するには、ブラウザが必要なNPAPIプラグインをサポートしていることを確認してください。

たとえば、64ビットFirefoxはNPAPIプラグイン(JAVAを含む)をサポートしておらず、Firefox 52以降ではNPAPIプラグインのサポートが無効になっています。Firefoxを介してiMC機能に正しくアクセスするには、Firefox 52より前のバージョンの32ビットFirefoxを使用するか、またはFirefox 52より後のバージョンのFirefox ESRを使用します。Firefoxが実行されるオペレーティングシステムには、次のものがが必要です。

32ビットJAVAプラグインがインストールされています。FirefoxでのNPAPIプラグインサポートの制限の詳細は、次のWebサイトを参照してください。

- ダッシュボードのパフォーマンスウィジェットでは、パフォーマンスインスタンスの名前が長い場合、その名前を完全に表示することはできません。

### データベースのバックアップ

- Intelligent Deployment Monitoring Agentを使用してデータベースリカバリを実行する前に、プライマリサーバーとバックアップサーバーで、デプロイされたコンポーネントとそのバージョンが同じであることを確認してください。

### GUI操作

- 部分的なリフレッシュをサポートするページによっては、リフレッシュ中に待機ペインが表示されない場合があります。リフレッシュの完了前に他の操作を実行しないでください。
- 表形式のナビゲーションシステムからページをナビゲートしても、左側のナビゲーションツリーはそれに応じて拡張または縮小されません。
- Task Management > Message Optionsページでメッセージのプッシュがイネーブルになった後、iMCの一部のページが正しく動作しなくなります。

### ホームページ

- Expand AllおよびCollapse Allを複数回クリックすると、ページの応答が遅くなります。

### リソース管理

- デバイスパネルの制限事項:



- HPデバイスパネルを開いて右クリックすると、メニューが完全に表示されない場合があります。この問題は、パネルページを最大化することで解決できます。
- デバイスパネルを開くと、パネルがぐらつくことがあります。この問題は、パネルをズームインまたはズームアウトすることで解決できます。
- Network Topologyを開いたときに5つのデバイスパネルを同時に開くことができない場合は、クライアントのJREを1.6.0\_27以降に更新することをお勧めします。
- vCenterまたはESXが通常のデバイスに変更された場合、iMC Virtual Network Managerコンポーネントはそのデバイスを認識しません。vCenterまたはESXを削除してから、再度iMC追加する必要があります。
- VMware vSphere APIの違いにより、vCenterによって管理されるESXの名前は、iMC Virtual Network Managerでは単にIPアドレスとして表示されますが、単独のESXの名前は実際の名前として表示されます。
- VRMコンポーネントだけを展開解除すると、レイヤ3およびVRRPの追加デバイスステータスは表示されません。ポーリングサイクルを待つか、問題のあるデバイスを手動で同期化する必要があります。
- iMCに多数の管理対象PCが含まれている場合は、PCのSNMPタイムアウトを1秒に設定し、SNMP再試行を1に設定します。

### 3Dルーム

- 3Dルームの温度マップを表示するには、コンピュータで専用のグラフィックスカードを使用する必要があります。温度マップは最大48個の温度サンプルポイントをサポートします。
- IEブラウザは3Dルームをサポートしていません。
- 3Dルームを正しく表示するには、コンピュータが次のハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしていることを確認します: Intel i5 CPU以上、4GB以上のメモリ、専用グラフィックスカード、最新のアップデートがインストールされたWindows7、および最新バージョンのChrome。

### パフォーマンス管理

- インスタンスの数が多すぎるパフォーマンスビューでしきい値を変更すると、エクスプローラにDo you want to abort the script?というメッセージが表示される場合があります。Noを選択して操作を続行するか、Monitoring Settingsで別のクライアントを変更するか、しきい値を変更してから、再試行してください。
- Realtime Monitorの制限事項:
  - モニターに大量のデータがある場合は、パラメータを変更しないことをお勧めします。
  - The server is busy or network anomaly has occurred, please refresh the page and try again. For more information, see the logs on the server.というメッセージが表示され、OKボタンをクリックしても動作しない場合は、プロンプトの情報に従ってページを更新してください。
  - モニターデータが小さい場合(ラウンド1.0)は、Y軸の最大値が最大データ値

を超える場合があります。通常の使用には影響しません。しばらくすると、Y軸の値は正常になります。

- 特定のケースでは、次のようになります。1)リアルタイムモニターページをズームアウトします。2) Add Monitor Graphボタンをクリックします。3) Add Monitor Graphページを上に移動します。4) Add Monitor Graphページを閉じます。リアルタイムモニターページの上にあるパラメータが完全に表示されない場合があります。
- パフォーマンスビューのエクスポートスタイルは、座標や凡例など、iMC Webページの表示スタイルとは異なります。
- 物理サーバー内の仮想マシンの数は50以下にする必要があります。そうしないと、仮想ネットワークのパフォーマンス収集タイムアウトが発生します。
- 生成されたパフォーマンスレポートに大量のデータがある場合は、横軸と縦軸のデータが非常に密になることがあります。
- パフォーマンスコンポーネントをインストールする必要があります。

## アラーム管理

- iMCTポロジータはDISMAN-PINGをサポートしており、存在しないIPを使用してターゲットアドレスを設定します。ダイナミックIPを使用するネットワークでは、しばらくしてから存在しないIPが割り当てられることがあります。これにより、iMCはDISMAN-PINGターゲットアドレスおよび設定ファイル変更アラームを送信するデバイスをリセットします。このようなアラームを回避するために、最後のIPをすべてのサブネットのiMc用に予約することをお勧めします。
- iMCがSNMPトラップを受信する場合、コミュニティ名およびSNMP PDU内の変数の長さはすべて255バイト未満である必要があります。
- トラップがトラップOIDによってクエリーされる場合、クエリー結果はデフォルトでSNMP v2c形式で表示されます。
- iMC PLAT 7.2のqvdm.conf構成ファイルでSendSmsTrapContentTypeパラメータが設定されている場合は、iMCがバージョン7.3にアップグレードされた後にSystem > System Configuration > SMSC Settings > SMS Content Format Configurationでパラメータをリセットする必要があります。
- トラップ定義を変更しても、アラームルールに対応するトラップは同期的に変更されません。
- Auto forwarding recovered alarm configurationがiMC PLAT 7.3(E0504L01)に追加されました。この機能が不要な場合は、System > System Configuration > System SettingsページのAuto Forwarding Recovered Alarm ConfigurationでNoを選択します。
- デバイスがSNMP v3トラップをiMCに送信する場合は、トラップソースをiMC内のデバイスの管理IPアドレスとして設定します。

## トポロジー管理

- ネットワーク内に500を超えるデバイスがある場合は、カスタムトポロジーを使用してネットワークを管理します。
- Googleマップを背景マップとして使用する場合は、次の制限が適用されます。
  - デバイスを表示範囲外に移動し、背景のGoogleマップを削除して、トポロジ

一を保存します。トポロジーを再度開くと、表示範囲外のデバイスの位置が変更される場合があります。デバイスの位置は手動で調整する必要があります。

- トポロジーを再ロードした後、Googleマップメニューが無効になる場合があります。Googleマップを使用するには、トポロジーを再度開く必要があります。
- デバイスの位置は、サイズの異なるウィンドウまたは解像度の異なるフルスクリーンのGoogleマップトポロジーで変更される場合があります。
- IRF/IRF2デバイスでは、デバイスの都合によりスレーブ上のリンクが描画されない場合があります。
- iMC WebページからiMCTポロジを開いた後、iMCTポロジをシャットダウンせずにiMC Webページを閉じると、タイムアウトのためにiMCTポロジは応答しません。
- Javaをクライアントの最新バージョンにアップグレードした後にアプレットトポロジーを開けない場合は、Control Panel > Java > securityを選択し、security levelをMiddleに設定します。
- エンドポイントのリアルタイムロケーション機能は、ゲートウェイデバイスのトポロジー接続関係に依存します。ゲートウェイデバイスのトポロジー接続関係が正しいことを確認してください。
- トポロジーはタブレットモデルでは使用できません。タッチスクリーンのエンドポイントでトポロジーを使用するには、タブレットモデルを無効にしてマウスを使用します。
- トポロジーを開いたままの状態が長時間続くと、ブラウザがクラッシュすることがあります。
- カスタムビュートポロジーに多数のデバイスを追加すると、ブラウザがクラッシュすることがあります。
- トポロジーノードのヒントの内容が多すぎると、コンテンツのロードがタイムアウトする場合があります。その結果、ヒント情報が完全に表示されません。
- 下位レベルのNMSクラウドでは、デバイスとリンクは、下位レベルのNMSからのデバイスとリンクの変更を自動的に同期化しません。

## レポート管理

- デバイスおよびポリシーが多すぎるコンプライアンスチェックタスクのチェック結果を表示すると、エクスプローラにDo you want to abort the script?というメッセージが表示される場合があります。Noを選択して操作を続行してください。
- iMCレポートには次の制限があります。
  - 複数ページレポートをRTFフォーマット(Microsoft Word)にエクスポートします。各ページのページ番号は、現在のページ番号ではなく、合計ページ数になります。RTFフォーマットとPDFフォーマットのレポートレイアウトは異なります。提案されたエクスポートレポートはPDF形式です。
  - サブレポートを含むレポート(インベントリレポートなど)をCSV形式でエクスポートする場合、サブレポートのデータはエクスポートできません。
  - レポートをオープンし、10分以上アイドル状態にします。レポートのNext

pageボタンをクリックすると、レポートがクローズされたことを示すプロンプトが表示されます。この場合は、レポートを再度オープンする必要があります。

- 特定の状況では、スケジュールされたレポートは生成に失敗し、翌日に自動的に生成されます。
- レポートチャートのY軸ラベルは、Firefoxでは縦スタイルではなく横スタイルで表示されます。
- グラフおよびレポートデータが多い場合(レポートページが50を超える場合)、エクスポートにExcelフォーマットを使用できない可能性があります。フォーマットのエクスポートはお勧めしません。
- レポートにリンクが含まれている場合、手動でエクスポートまたは定期的に生成されたレポートファイルには、リンクされた内容は含まれません。
- iMCデバイスサマリーレポートでは、各図は個別のサブレポートであり、これらのサブレポートはドリルダウンをサポートしていません。
- アップグレード前に作成されたカスタムビューデータサマリーレポートV2は、iMCプラットフォーム7.3(E0503)にアップグレードされた後に失われます。

## サービス管理

- デバイスのフローテンプレートがコマンドラインだけをサポートし、MIBはサポートしない場合、iMCはそのデバイスのACL設定をサポートしません。
- デバイスがデフォルトルートで直接iMCと通信できない場合は、iMC Intelligent Configuration Centerがこのデバイスをバックアップおよびアップグレードできない原因になります。iMCインターフェイス802.1X設定機能では、単一インターフェイスで802.1Xをイネーブルにすることはサポートされていません。
- ICCおよびACLMモジュールを除き、他のモジュールでは、構成の実行後に実行構成が自動的にスタートアップ構成に保存されることはありません。構成を保存するために、1つまたは複数のデバイスを一括して手動で保存できます。
- ICCでは、TFTPを使用してデバイスの設定をバックアップする場合に、TFTP接続が失敗した場合は、デバイスに正しいTFTP送信元IPアドレスを設定します。デバイスがH3Cデバイスである場合は、`tftp client source ip X.X.X.X`コマンドを使用します。

## SNMP/Telnet

- iMC SNMP v3の埋め込みセキュリティ名として、名前がinitialのSNMP v3セキュリティユーザーを作成しないでください。
- Telnetを使用してデバイスの設定を変更する場合、設定がiMC(VLANなど)にキャッシュされている場合は、デバイスがiMCによって同期化されるまで、再度iMCを使用して設定を変更しないでください。そうしないと、設定が正しくありません。
- SNMPパケットでは、可視ストリングタイプのSNMP変数の符号化モードはGBKまたはアスキーである必要があります。

## ユーザー管理

- オペレータには、数が1000を超えるユーザーグループの一部へのアクセス権を割り当てることはできません。

## REST

- Maintener(保守担当者)が実行できるのは、REST APIを介した読み取り操作だけです。

## 階層型NMS

- 一度に1つの下位レベルNMSを追加できるのは、1つの上位レベルNMSだけです。
- 使用可能な上位および下位機能を確保するために、上位および下位のiMCバージョンは一貫していなければなりません。
- 上位機能と下位機能が使用可能であることを確認するには、次のレベルをアップグレードしてから上位レベルをアップグレードするか、再起動後に次のレベルをアップグレードしてください。
- 上位レベルのiMCシステムは最大10の下位レベルのiMCシステムをサポートし、各下位レベルのiMCシステムは最大5000のデバイスを管理できます。

## 演算子

- オペレータパスワードは32文字を超えることはできません。RADIUS、LDAP、またはTACACS認証では、認証サーバー上のユーザーパスワードは32文字を超えることはできません。

## ライセンス

- iMC PLAT7.3(E0703P02)より前のバージョンからiMC PLAT7.3(E0703P02)以降のバージョンにアップグレードした後、ライセンス容量を拡張するためのホストIDファイルを生成するには、H3Cテクニカルサポートに連絡してください。

## SSA

- SSAコンポーネントを使用してiMCをインストールする場合は、iMCを起動する前にオペレーティングシステムのIPアドレスを設定する必要があります。
- SSAは、iLO3およびiLO4を搭載するHPサーバーをサポートします。
- SSAは次のモデルを監視できます。監視インデックスのサポートは、サーバーモデルによって異なります。

タイプ	ベンダー	モデル	備考
サーバー	HP	ProLiant DL320e Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
		ProLiant DL360e Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
タイプ	ベンダー	モデル	備考
サーバー		ProLiant DL360p Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
		ProLiant DL380e Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
		ProLiant DL380p Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。

	ProLiant DL388e Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
	ProLiant DL388p Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
	ProLiant DL580Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
	ProLiant DL380Gen9	センサーインデックスはサポートされていません。
	ProLiant DL560Gen8	センサーインデックスはサポートされていません。
	ProLiant DL385G7	ストレージ、ファームウェア、およびセンサーインデックスはサポートされていません。
H3C	FlexServerR390	センサーインデックスはサポートされていません。
	FlexServerR590	センサーインデックスはサポートされていません。
	FlexServerB590	センサーインデックスはサポートされていません。
	FlexServerB390	センサーインデックスはサポートされていません。
	FlexServerR690	センサーインデックスはサポートされていません。
	UIS R4900G2	該当なし
	UIS-CELL-4010-C1	センサーインデックスはサポートされていません。
	UIS B390G2	センサーインデックスはサポートされていません。
	UIS R590G2	センサーインデックスはサポートされていません。
	UIS R390X G2	該当なし
	R4900G2	該当なし
	R4900G3	該当なし
	R4700G3	該当なし
	R6800 G2	センサーインデックスはサポートされていません。
	UIS R690G2	センサーインデックスはサポートされていません。
Huawei	Telcal RH2288H V2 02310VLG	ファームウェアインデックスはサポートされていません。
	RH2288V3	ファームウェアインデックスはサポートされていません。
	RH2288H V3	ファームウェアインデックスはサポートされていません。
	RH5885V3	ファームウェアインデックスはサポートされていません。

IBM	System x3650M3 7945NGA	プロセッサ、ストレージ、およびファームウェアのインデックスはサポートされていません。
	System x3650M4	ファン、メモリー、ストレージ、およびファームウェアのインデックスはサポートされていません。
	System x3650M5	ファームウェアインデックスはサポートされていません。
	System x3850X5 / x3950X5	ストレージインデックスとファームウェアインデックスはサポートされていません。
Inspur	NF5270M3	サーバーにはセンサーインデックスのみがあります。SSAIはすべてのセンサーインデックスを取得し、ファンおよび温度インデックスを分類します。
	TS860	サーバーにはセンサーインデックスのみがあります。SSAIはすべてのセンサーインデックスを取得し、ファンおよび温度インデックスを分類します。
	NF5270M4	ストレージインデックスとファームウェアインデックスはサポートされていません。
	NF5280M4	ストレージインデックスとファームウェアインデックスはサポートされていません。
Lenovo	ThinkServer RD340	パワーサプライ、プロセッサ、メモリー、ストレージ、およびファームウェアの各インデックスはサポートされていません。
	ThinkServer RD640	パワーサプライ、プロセッサ、メモリー、ストレージ、およびファームウェアの各インデックスはサポートされていません。
	System x3650M5	ファームウェアインデックスはサポートされていません。
DELL	PowerEdge R730	ストレージインデックスとファームウェアインデックスはサポートされていません。

タイプ	ベンダー	モデル	備考
エンクロージャー	HP	BladeSystem c7000エンクロージャー G3	該当なし
	IBM	Flex Systemエンタープライズシャーシ	該当なし
	Lenovo	Flex Systemエンタープライズシャーシ	該当なし
ストレージ	H3C	ONEStor	該当なし
	HP	3Par	該当なし
		4730	該当なし
		5730	該当なし



# バージョンの更新

## 機能の更新

### iMC PLAT 7.3(E0705P02)

#### ソフトウェア機能のアップデート

##### 追加された機能

- SQLサーバーデータベースに対するTLS1.1およびTLS1.2プロトコルのサポートが追加されました。TLSプロトコルをサポートするには、次のタスクを実行します。
  - 1)qvdm.confでusetls=trueを構成します。
  - 2)OLE DBパッチを次のWebサイトでアップグレードします。<https://www.segen-us/download/details.aspx?id=56730>TLS1.2をサポートするSQL Serverのバージョンについては、<https://support.microsoft.com/en-sg/help/3135244/tls-1-2-support-for-microsoft-sql-server>を参照してください。
- MySQL 8.0データベースのサポートが追加されました。
- デバイスバックアップファイルのストレージパスを構成するためのサポートが追加されました。
- Browse Trapページでは、重大度によるトラップの照会のサポートが追加されました。
- リアルタイムアラームを.csvファイルにエクスポートするためのサポートが追加されました。
- Browse SyslogページにDelete Allボタンが追加されました。

##### 削除された機能

なし

##### 変更された機能

- VMIにiMCをインストールする場合、ユーザーはホスト情報を指定する必要はありません。
- タイムアウト時間は、認証サーバーとして指定されたRADIUSサーバーで設定できます。
- SMS送信履歴に失敗理由を追加しました。
- 端末アクセスにおける履歴アクセスログは、端末のIPセグメントによって問い合わせることができます。
- ユーザーグループを照会できます。
- カスタムビュー名の長さ制限が64に変更されました。
- SNMPテンプレートは、ポートの指定をサポートします。
- デバイス設定の展開プロセス中に、デバイス設定パラメータのインポートおよびエクスポートのサポートが追加されました。

#### 新しいデバイスのサポート

なし

#### 新しいカードまたはモジュールのサポート

なし

#### オペレーションの変更

なし

# 未解決の問題と回避策

## 問題1 201306280102

- 症状:VMが他のハイパーバイザーに移行したときに、VMパフォーマンスインデックスの監視を中止します。
- 状態:VMが他のハイパーバイザーに移行した後で、モニターを再度追加します。
- 回避策:マルチフィルタールールを追加します。

## 問題2 201405040351

- 症状:コンバインドトポロジーでは、サブビューのステータスは常にグレーで表示されます。これは、サブビュー内のデバイスの最高レベルのアラームに基づいて表示されます。
- 状態:この症状は、収束トポロジー機能を使用しているときに発生します。
- 回避策:なし。

## 問題3 201406240622

- 症状:VLANインターフェイスがRAMを介してテナント用に展開されていない場合、同じVLANインターフェイスを展開すると、設定の競合が発生します。
- 状態:この症状は、VLANインターフェイスが展開解除された後にターゲットデバイスが同期化されない場合に発生します。
- 回避策:VLANインターフェイスがアンデプロイされた後にターゲットデバイスを同期化するか、またはRAMにサービスインスタンスを作成する際に構成の競合を検出しないように選択します。

## 問題4 201409030426

- 症状:VLANがデバイスに展開されると、アクセスインターフェイスの設定に失敗します。
- 状態:この症状は、VLANマネージャで行われたレイヤ2集約インターフェイスコンフィギュレーションの変更がデバイスと同期されていない場合に発生します。
- 回避策:レイヤ2集約インターフェイス設定の変更をデバイスに同期化します。

## 問題5 201501080347

- 症状:デバイスのTelnetまたはSSHパラメータが変更された後、デバイスがACLマネージャですぐに同期化されません。
- 状態:この症状は、デバイスのTelnetまたはSSHパラメータが変更された場合に発生します。
- 回避策:デバイスのTelnetまたはSSHパラメータが変更された後に、ACLマネージャでデバイスを手動で同期化します。

## 問題6 201502100071

- 症状:デバイスの一部のE1POSインターフェイスが、デバイスインターフェイスリストページに表示されません。
- 状態:オペレータがデバイスの詳細ページからPOS Access > Interfacesページにアクセスします。
- 回避策:なし。

## 問題7 201507150087

- 症状:ベアメタルサーバーに対して自動配置がトリガーされません。
- この症状は、ベアメタルサーバーにIPアドレスを割り当てるようにDHCPが設定されていて、SSAで自動展開がイネーブルになっている場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題8 201607200242

- 症状:パフォーマンスしきい値を変更できません。
- 状態:この症状は、Oracleデータベースクライアントキャラクタセットの値のフォーマットが、でない場合に発生します。
- 回避策:クライアントキャラクタセットの言語および地域設定をAmerican\_Americaに変更します。

#### 問題9 201703300076

- 症状:H3C iMC Serverサービスは、WindowsベースのiMCシステムに対して開始できません。
- 状態:この症状は、iMCシステムのアップグレードプロセスが例外的に終了した後に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題10 201703290187

- 症状:マスターiMCサーバー上のIntelligent Deployment Agentのメモリー使用量が2GB以上で一定です。
- 状態:この症状は、20を超えるコンポーネントが導入されている集中型または分散型のiMCシステムで発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題11 201706100111

- 症状:Tomcatサービスが例外的に終了する可能性が低くなります。
- 状態:この現象は、トポロジー、3Dルーム、およびダッシュボード機能が長時間使用されている場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題12 201707070542

- 症状:アプレットが正しく表示されません。
- 状態:この症状は、クライアントのJREバージョンが1.6であり、クライアントがHTTPSを介してiMCにアクセスする場合に発生します。
- 回避策:クライアントのJREをバージョン1.7にアップグレードします。

#### 問題13 201709200715

- 回避策:オーバーレイトポロジーでは、VXLANネットワーク内のVTEPデバイス接続が強調表示されている場合、クエリーは失敗します。
- 状態:複数のスパインの間に冗長線があります。
- 回避策:スパイン間に冗長接続がなく、ACポートを他のVTEPデバイスに接続できないようにします。

#### 問題14 201703090667

- 症状:コンポーネントがアップグレードされると、インテリジェントデプロイメント監視エージェントによって"Checking the installation environment failed."というメッセージが表示されます。
- 状態:この症状は、多数のサービスコンポーネントがデプロイされており、アップグレードされたコンポーネントに多数の履歴バージョンがある場合に発生します。
- 回避策:の関連コンポーネントの履歴バージョンを手動で削除します。  
iMC\deploy\componentsディレクトリ。

#### 問題15 201801170696

- 症状:HTTPを使用してChromeブラウザでiMCページを開くと、iMCページを開くことができず、ブラウザにERR\_TOO\_MANY\_REDIRECTS,There were many redirectsというメッセージが表示

示されます。

- 状態:Unknown。
- 回避策:HTTPSを使用してiMCページを開くか、別のタイプのブラウザを使用します。

#### 問題16 201709130562

- 症状:CMDBでのCIのインポート操作に時間がかかります。
- 状態:この症状は、インポートするCIが多数ある場合に発生することがあります。
- 回避策:なし。

#### 問題17 201610240364

- 症状:CMDBでのCIの同期操作に時間がかかります。
- 状態:この症状は、同期対象のCIが多数ある場合に発生することがあります。
- 回避策:なし。

#### 問題18 201610210379

- 症状:CMDBでのBatch Add Relationships操作に時間がかかります。
- 状態:この症状は、追加する関係が多数ある場合に発生する可能性があります。
- 回避策:なし。

#### 問題19 201612150549

- 症状:ルートアラームの関係チャートが混乱している可能性があります。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

#### 問題20 201612080570

- 症状:iHAへのiMCの展開中に、セカンダリiMCサーバーの展開が失敗しました。
- 状態:この症状は、プライマリiMCサーバーがスタンドアロンモードで動作していても、セカンダリiMCサーバーがクラスタに属している場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題21 201612080189

- 症状:iHAへのiMC展開中に、HostNameフィールドでアンダースコアがサポートされません。
- 状態:この症状は、iHAへのiMC展開中に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題22 201612070469

- 症状:IMCサーバーがiHA上のクラスタから切断されましたが、ページのリフレッシュ後もDetachedボタンが有効なままです。
- 状態:この症状は、iHA上のiMCサーバーを切断し、ページを更新した場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題23 201611250491

- 症状:iHAにiMCを導入した後、セカンダリiMCサーバーが正しく起動しない場合があります。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

#### 問題24 201611280421

- 症状:スイッチオーバーの後、プライオリティの低いセカンダリiMCサーバーがアクティブサーバーになります。
- 状態:この症状は、iMC HA管理センターに複数のセカンダリiMCサーバーがある場合に発生することがあります。
- 回避策:なし。

#### 問題25 201610200280

- 症状:セカンダリからプライマリへのスイッチオーバーが失敗することがあります。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

#### 問題26 201711260010

- 症状:オーバーレイトポロジに集約リンクが正しく表示されません。
- 状態:この症状は、オーバーレイトポロジ内の集約リンクを表示したときに発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題27 201807300643

- 症状:VLAN deploymentページでエラーが発生します。
- 状態:この症状は、ITSMが正常に動作していない場合に発生します。
- 回避策:ITSMをインストールしないでください。

#### 問題28 201808300415

- 症状:アラームリストおよびアラームの詳細ページのAlarm Sourceリンクに移動できません。
- 状態:この症状は、アラームソースがiMCに追加されていない場合に発生します。
- 回避策:アラームソースをiMCに追加します。

#### 問題29 201804240538

- 症状:パフォーマンスビューの書式折れ線グラフレポートのタイトルにnullが含まれています。
- 状態:この症状は、パフォーマンスデータが収集されない場合に発生します。
- 回避策:パフォーマンスデータを収集した後にレポートを表示します。

#### 問題30 201709080066

- 症状:カスタムビューのデバイスリストでページを前後に移動するのに時間がかかります。
- 状態:この症状は、カスタムビューに多数のデバイスがあり、perform indexカラムがカスタマイズされている場合に発生します。
- 回避策:パフォーマンスインデックス列をカスタマイズしないでください。

#### 問題31 201809210661

- 症状:CIを変更しても、パブリックプロパティのデフォルト値は継承されません。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

#### 問題32 201809210651

- 症状:上位および下位レベルのNMS設定にヘルプが追加されません。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

### 問題33 201809200704

- 症状:DBManでデータのバックアップが失敗します。
- 状態:この症状は、Oracle環境でネットワーク名にドット(.)が含まれている場合に発生します。
- 回避策:ネットワーク名を変更します。

### 問題34 201809030348

- 症状:パフォーマンスレポートとアラームレポートが、スタンバイサーバーに表示されません。
- 状態:この症状は、アクティブサーバーとスタンバイサーバーの両方が分散モードで展開されている場合に発生します。
- 回避策:なし。

### 問題35 201810170259

- 症状:インストールプロセス中に、インストールインターフェイス上の文字がはっきりしません。
- 状態:この症状は、iMCがLinux環境にインストールされている場合に発生します。
- 回避策:なし。

### 問題36 201810120390

- 症状:下位レベルのNMSによって管理されているデバイスが、上位レベルのNMSと完全に同期していません。
- 状態:この症状は、上位NMSが階層型NMS環境でデバイスを同期化する場合に発生します。
- 回避策:なし。

### 問題37 201810110246

- 症状:自動検出の結果に、検出されたデバイスが表示されません。
- 状態:この症状は、自動検出が実行された場合に発生します。
- 回避策:なし。

### 問題38 201810290321

- 症状:チェックボックスを選択または選択解除する操作に対するシステムの応答が遅くなります。
- 状態:この症状は、ログイン後一定期間iMCを操作した場合に発生します。
- 回避策:ブラウザのrefreshボタンをクリックして、ページをリフレッシュします。

### 問題39 201611150556

- 症状:ダッシュボードに下位レベルのNMSパフォーマンスビューを追加してからダッシュボードを表示した場合、パフォーマンスインスタンス名を完全に表示できません。完全な情報を表示するには、ヒント情報を提供する必要があります。
- 状態:この症状は、インスタンス名が長すぎる場合に発生します。
- 回避策:インスタンス名を短い名前に変更します。

### 問題40 201811230200

- 症状:デバイスの詳細ページのConfiguration Managementタブがゆっくり表示されます。
- 状態:この症状は、多数のデバイスが存在する場合に発生します。
- 回避策:なし。

### 問題41 201810240038

- 症状:パフォーマンスビュー監視インスタンスのアラームデータが正しく表示されません。
- 状態:この症状は、Performance Management > Performance Viewの場合に発生します。

ページが開きます。

- 回避策:なし。

#### 問題42 201811070829

- 症状:H3C R4900G3サーバーがSSAIに追加された後、サーバーに関する情報を取得できません。
- 状態:この症状は、H3C R4900G3サーバーが古いファームウェアバージョンを使用しており、SNMPをサポートしていない場合に発生します。
- 回避策:ディレクトリimc\client\conf\cim\serverinfo\New H3C Technologiesおよびimc\client\conf\cim\serverinfo\Unis Huashanを削除し、jserverを再起動して、サーバーをSSAIに再度追加します。

#### 問題43 201901040219

- 症状:モニターリングサーバーのページキャプチャ機能が使用できません。
- 状態:この症状は、HPサーバーのバージョンがiLO3より前で、iMCプラットフォームがOpenJDKのバージョンに切り替わった場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題44 201903290719

- 症状:V1レポートを開くことができません。
- 状態:この症状は、V1レポートページにアクセスした場合に発生することがあります。
- 回避策:F5を押してページを更新します。

#### 問題45 201908020356

- 症状:リストを返すすべてのRESTful APIがデータを返すことができません。
- 状態:この症状は、Damengデータベースが使用されている場合に発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題46 201909060399

- 症状:新しく追加された下位レベルのNMSクラウドを保存できません。
- 状態:この症状は、新しく追加された下位レベルのNMSクラウドが保存された場合に発生することがあります。
- 回避策:再ロードして保存します。

#### 問題47 201909060397

- 症状:保存されている下位レベルのNMSクラウドを初めて開くと、ページの左端にクラウドが表示されます。
- 条件:なし。
- 回避策:なし。

#### 問題48 201911141295

- 症状:上位レベルのNMSで、下位レベルのNMSによって管理されているデバイスを表示できません。
- 状態:この症状は、Oracleデータベース環境で発生します。
- 回避策:なし。

#### 問題49 201911150656

- 症状: Add DeviceページとAuto Discoveryページでエラーが発生します。
- 状態:この症状は、複数レベルのデバイスグループが作成された場合に発生します。

- 回避策なし。



# 解決された問題のリスト

## iMc PLAT 7.3(E0705P02)で解決された問題

### 201908270787

- 症状:インターフェイスで生成されたDowntラップは、通常は回復できません。
- 状態:この症状は、デバイスがインターフェイスUp/Downtラップを継続的に送信する場合に発生します。

### 201910250487

- 症状:リソースプロセスのリンクステータスは、ポーリングによって更新できません。
- 状態:この症状は、デバイスがインターフェイスステータスをポーリングするときに遅延が存在する場合に発生します。

### 201910140322

- 症状:メモリーリークが発生します。
- 状態:この症状は、コンプライアンスチェックのタスクリストページが開いている場合に発生します。

### 201909270082

- 症状:アラームページがクラッシュしました。
- 状態:この症状は、兄弟プロセスの障害に対して注釈および評価部門が変更された場合に発生します。

### 201909240678

- 症状:アラームメールに解析されていないフィールドFaultIsRecoverが含まれています。
- 状態:この症状は、アラームメール転送機能が有効になっていて、転送されるコンテンツにFaultIsRecoverフィールドが含まれている場合に発生します。

### 201909240678

- 症状:アラームメールに解析されていないフィールドDurationが含まれています。
- 状態:この症状は、アラームメール転送機能がイネーブルになっていて、転送されるコンテンツにDurationフィールドが含まれている場合に発生します。

### 201908070067

- 症状:ページに競合が表示されます。
- 状態:この症状は、トラップフィルタリング規則が追加された場合に発生します。

### 201906270430

- 症状: Alarm Sound Settingページのデフォルト設定が競合します。
- 状態:この症状は、Alarm Sound Settingページでデフォルト設定が復元された場合に発生します。

### 201906270245

- 症状:有効なIPアドレスを階層型NMSに追加できません。
- 状態:この症状は、255を含むIPアドレスが階層アラーム設定ページに入力された場合に発生します。

### 201908280814

- 症状:All Alarmsページに誤ったデータがエクスポートされます。
- 状態:この症状は、アラームが.CSVファイルにエクスポートされた場合に発生します。

#### 201908130550

- 症状:トラップ定義トラップ重大度設定がインポートされると、データが失われます。
- 状態:この症状は、200000を超えるトラップ定義トラップ重大度設定を含むファイルがインポートされた場合に発生します。

#### 201910141008

- 症状:ダッシュボードパフォーマンスビューおよび下位レベルのNMSパフォーマンスビューウィジェットにデータが表示されません。
- 条件:なし。

#### 201907260392

- 症状:ホームページのカスタマイズされたパフォーマンス表示プロファイルウィジェットに、インスタンスステータスが正しく表示されません。
- 状態:この症状は、ホームページ上のカスタマイズされたパフォーマンスビュープロファイルウィジェットで発生します。

#### 201906270219

- 症状:通知メールの送信に失敗することがあります。
- 状態:この症状は、通知メールを送信できるスケジュール自動バックアップ計画が作成された場合に発生します。

#### 201906201087

- 症状: Service > General Configuration Compareページで、Show Allおよび一般設定の比較(差分のみを表示)機能が正しく表示されない。
- 状態:この症状は、Firefoxブラウザで比較関数を高速クリックした場合に発生します。

#### 201909050295

- 症状:REST APIのimcrs/syslog/logがステータスコード500を返します。
- 状態:この症状は、クエリパラメータの内容が入力された場合に発生します。

#### 201910150470

- 症状:データ収集が実行されると、システムはスレーブサーバー上のシステムログの収集に失敗します。
- 状態:この症状は、iMCが分散モードで展開されている場合に発生します。

#### 201906290188

- 症状:データ権限の設定で、ダッシュボードビューのアクセス権のリンクにアクセスできません。
- 条件:なし。

#### 201910141066

- 症状:オペレータがデスクトップエディションにログインできません。
- 状態:この症状は、演算子が新しく作成された場合に発生します。

# ソフトウェアのアップグレード

次の情報では、汎用パッチのインストール手順のみを説明します。iMCのインストール手順および詳細なアップグレード手順の詳細は、配置シナリオのiMCの配置を参照してください。

## 制限事項およびガイドライン

パッチのインストール中にエラーが発生した場合は、データを復元してから、アップグレード手順を繰り返してパッチをインストールします。問題が解決しない場合は、H3Cサポートに連絡してサポートを受けてください。

パッチのインストール後は、システムをロールバックできません。

## 前提条件

このバージョンにアップグレードするには、次のいずれかのバージョンが実行されていることを確認してください。

- iMC PLAT 7.3(E0705)。
- iMC PLAT 7.3(E0705L01)

アップグレードを成功させるためのベストプラクティスとして、アップグレードソフトウェアパッケージをアップグレードするサーバーのローカルファイルシステムにダウンロードします。リモートファイルシステムからアップグレードする場合、接続の喪失などの問題によりアップグレードが失敗することがあります。

# iMCのバックアップ

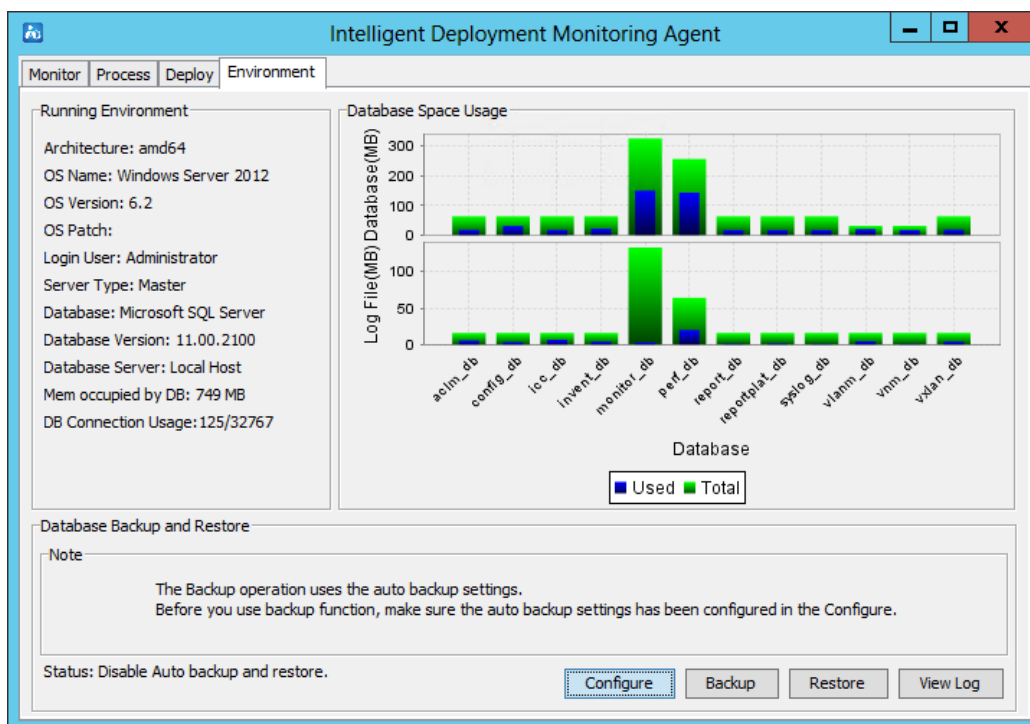
アップグレード前にiMCをバックアップして、ソフトウェアのアップグレードが失敗した場合の迅速なデータリカバリおよびソフトウェアダウングレードを可能にします。

- deployment monitoring agentからサーバー上のデータベースをバックアップするにはEnvironmentタブのbackupをクリックします。

分散配置環境では、マスターサーバー上でこの手順を実行します。

リモートデータベースを使用する配置でデータベースのバックアップにdeployment monitoring agentを使用するには、リモートデータベースサーバーにエージェントをインストールする必要があります。

図1 deployment monitoring agentからのiMCのバックアップ



- iMCインストールディレクトリ全体をバックアップ用の新しいディレクトリにコピーします。  
分散配置環境では、マスターサーバーとそのすべての下位サーバーでこの手順を実行します。

## 注:

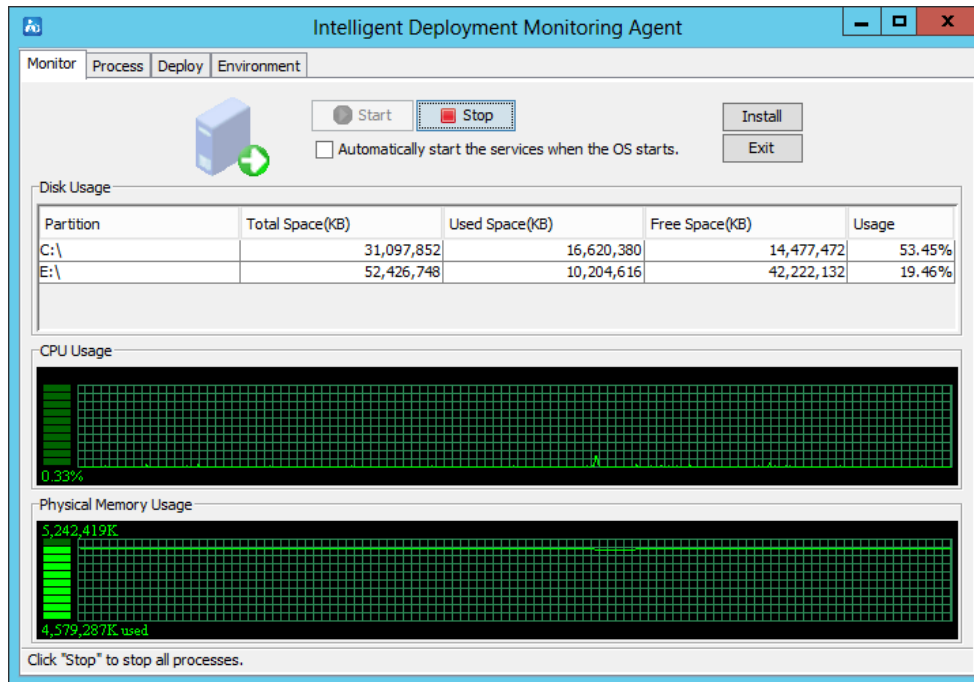
iMCフェイルオーバークラスターの場合、アップグレード手順を実行する必要があるのはアクティブノードのみです。バックアップノードは自動的にアクティブノードと同期します。

# iMCのパッチ適用

分散配置では、マスターサーバーを使用してパッチのインストールを開始します。

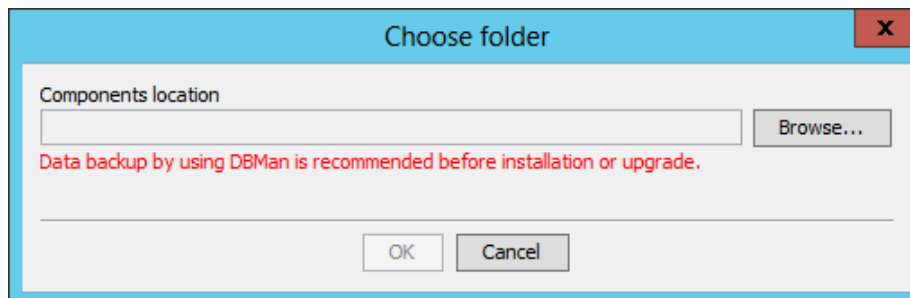
- 展開監視エージェントのMonitorタブで、StopをクリックしてすべてのiMCプロセスを停止し、Installをクリックします。

図2 新しいコンポーネントの取り付け



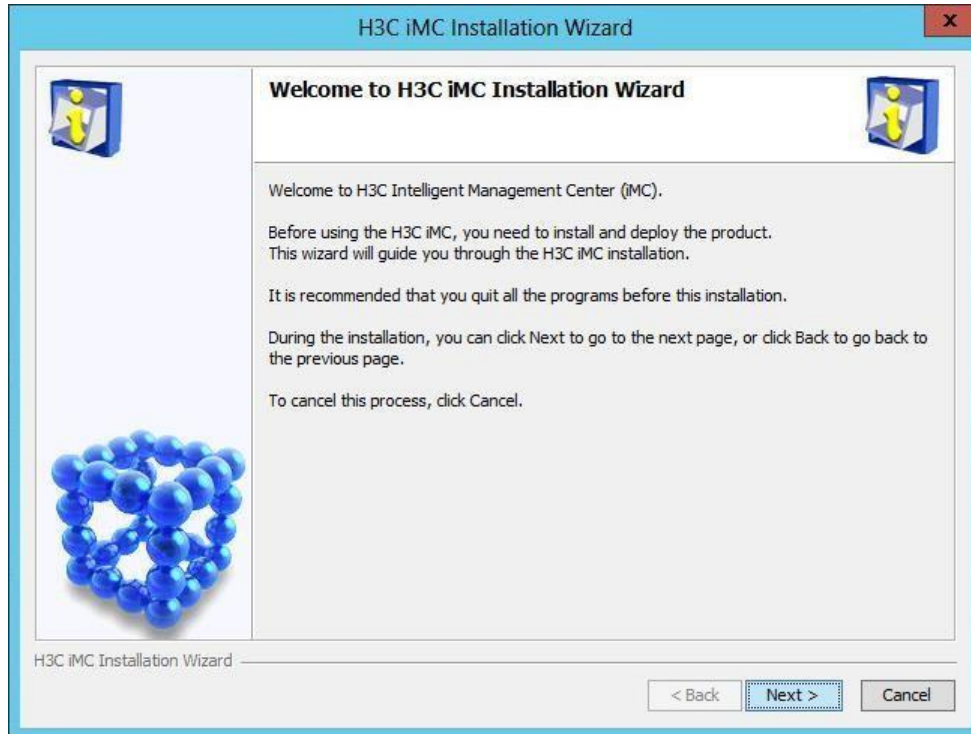
- ファイル選択ダイアログで、Referenceをクリックして、iMCアップグレードパッケージを含むディレクトリ内のcomponentsサブディレクトリを選択し、OKをクリックします。

図3 コンポーネントの選択



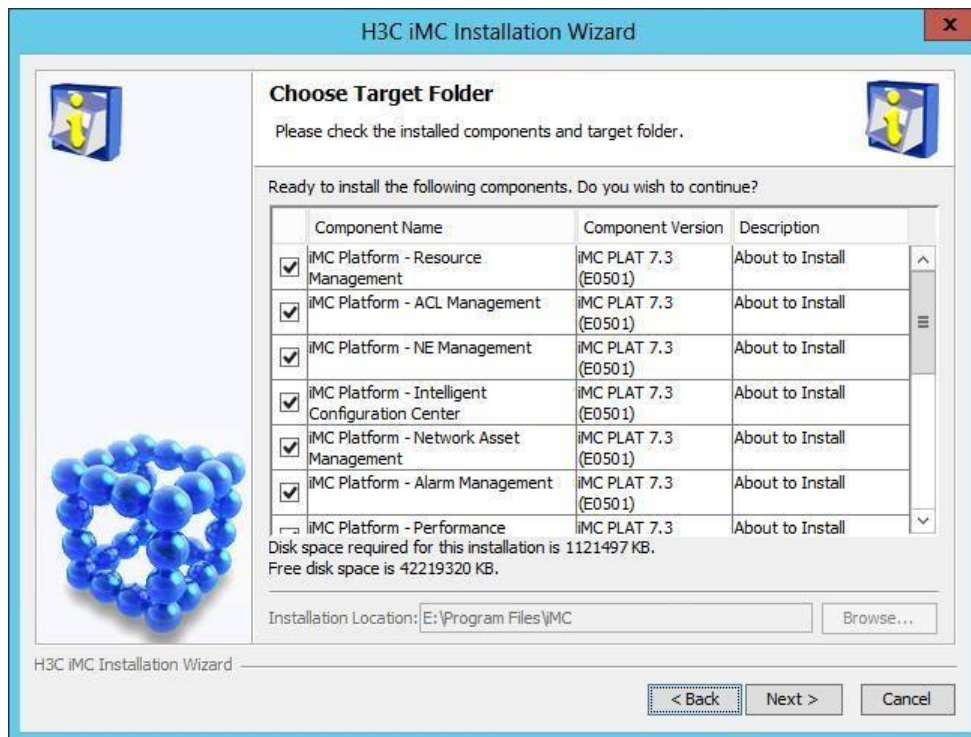
- インストールウィザードが開いたら、Nextをクリックし、指示に従って共通コンポーネントをアップグレードします。

図4 インストールウィザード



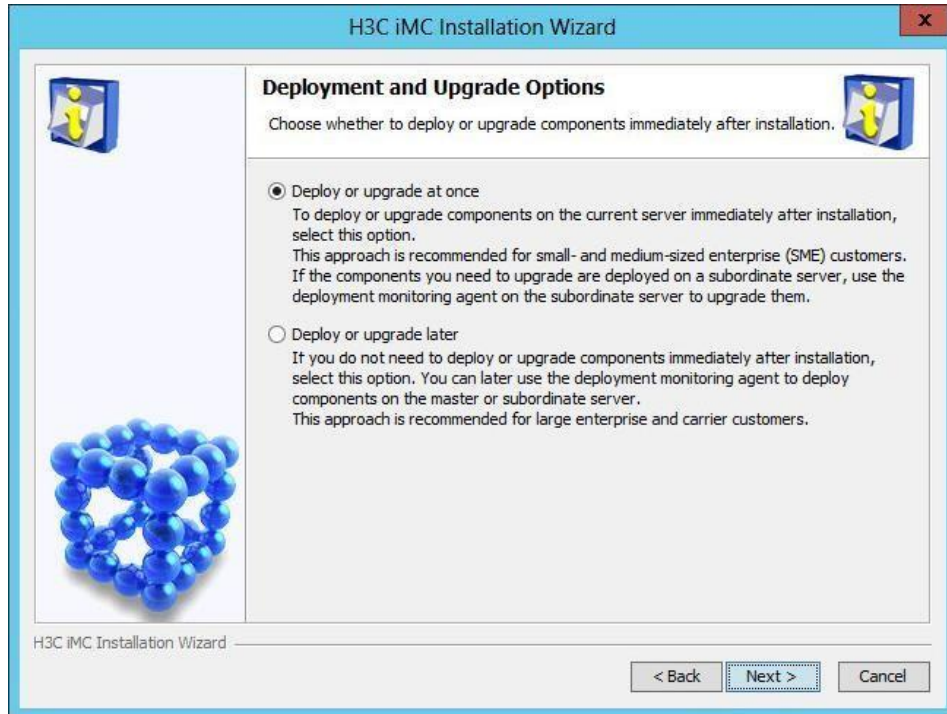
- インストール先フォルダの選択画面が表示されたら、インストール先を確認して、次へをクリックします。

図5 インストール場所の確認



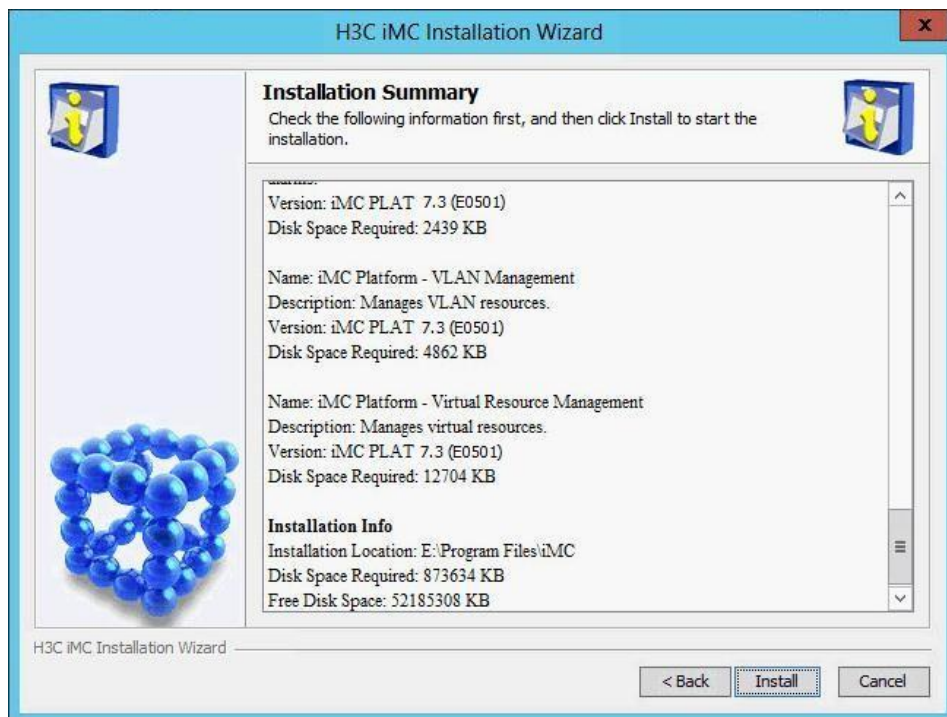
- Deployment and Upgrade Optionsウィンドウで、即時展開またはアップグレードのオプションを選択し、Nextをクリックします。

図6 デプロイメントおよびアップグレードオプションの選択



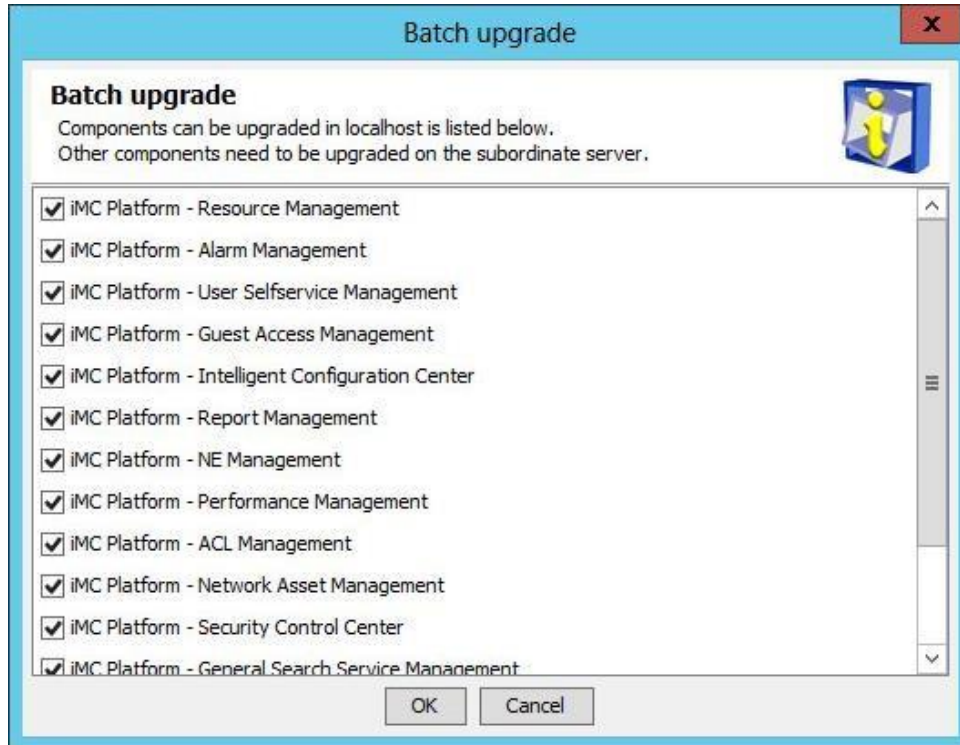
- インストールの概要ウィンドウで、すべてのインストール情報が正しいことを確認し、Installをクリックします。

図7 デプロイメントおよびアップグレードオプションの選択



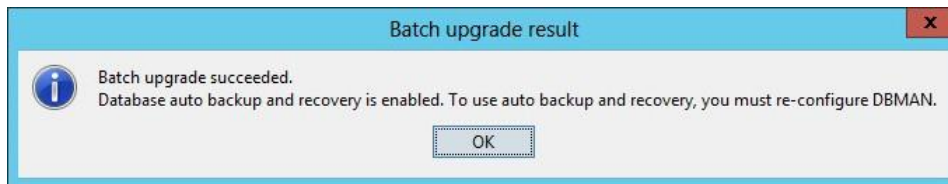
- Batch Upgradeウィンドウで、インストールするコンポーネントを選択し、OKをクリックします。

図8 コンポーネントのアップグレード



- Upgrade succeededダイアログが表示されたら、OKをクリックしてアップグレードを完了します。

図9 Upgrade succeededダイアログボックス



- デプロイメントモニターリングエージェントのMonitorタブで、startをクリックしてすべてのiMCプロセスを開始します。
- iMCフェイルオーバークラスターの場合は、前の手順を繰り返して残りのノードをアップグレードします。分散配置を使用する場合、またはデータベースサーバーに配置監視エージェントがある場合は、次のように残りのサーバーをアップグレードします。
  - a. 各サーバーで、展開モニターリングエージェントとH3C iMCサーバーを再起動します。
  - b. 表示される指示に従って、アップグレードを完了します。



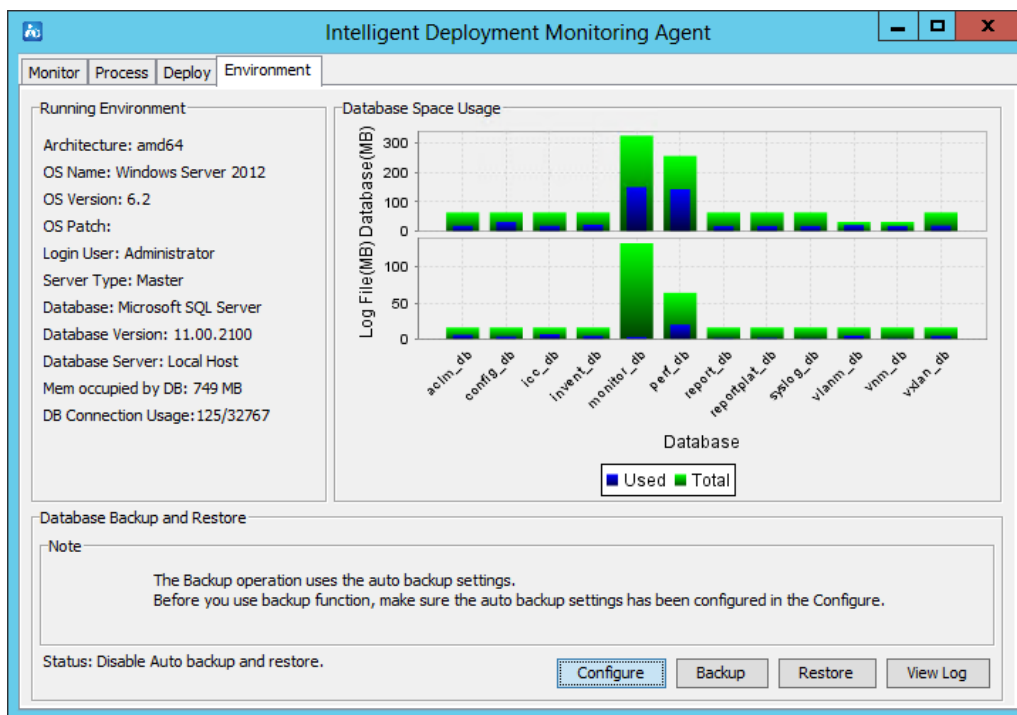
# アップグレード障害後のiMCの復元

分散配置の場合は、マスターサーバーとそのすべての下位サーバーで復元手順を実行します。

フェールオーバーiMCクラスタの場合は、アクティブノードで復元手順を実行します。

- deployment monitoring agentのEnvironmentタブで、restoreをクリックし、すべてのデータベースバックアップファイルを選択してiMCを復元します。

図10 iMCのリストア



- deployment monitoring agentおよびH3C iMCサーバーを含むすべてのiMCプロセスを停止します。
- iMCインストールディレクトリ内の内容を削除します。
- バックアップiMCディレクトリを以前のiMCインストールディレクトリにコピーします。
- 配置でリモートデータベースを使用する場合は、iMCサーバーでDBManユーティリティを使用してデータベースをリストアします。分散配置では、マスターサーバーでこの手順を実行します。

## 情報問い合わせ先情報

ご不明な点がございましたら、メール: [service@h3c.com](mailto:service@h3c.com)までご連絡ください。